

# 「海から届ける写真展」 有明客船ターミナルで開催

— 東京港から内航船の魅力発信 —

東京港埠頭と全日本内航船員の会との共催が決定！

まずは一回やってみよう。東京港埠頭さんの熱意で実現。

年々、ブラッシュアップしていけばいいですね。

資料として業界新聞の記事を転載し、ご報告いたします。

(全日本内航船員の会 事務局)

内航海運新聞（平成30年9月17日号）の記事を紹介いたします。 以下転載

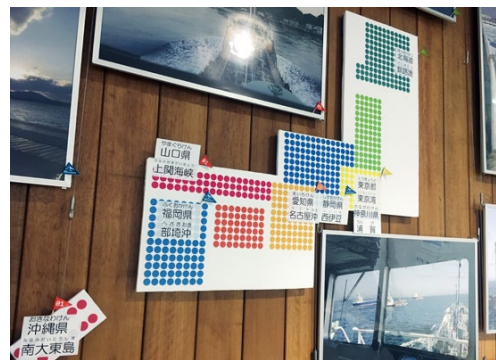
## 「海から届ける写真展」 有明客船ターミナルで開催

東京港から内航船の魅力発信

7月15日の「内航船の日」を記念したPRイベントである「海から届ける写真展」が、東京港埠頭と全日本内航船員の会の共催により、有明客船ターミナルで開催される。開催期間は9月15日から10月31日まで。下町の銭湯から始まった内航船をPRする取り組みが、大きな広がりを見せている。

この「海から届ける写真展」は、7月15日の記念日「内航船の日」に合わせて、全日本内航船員の会が東京・墨田区の銭湯「大黒湯」のロビーで毎年開催しているもの。普段内航船と関わりのない人々に、内航船員が撮影した写真や内航貨物船について解説するパネルなどを通じて、その重要性や船員の仕事をアピールしている。3年目となる今年は、7月15日から31日にかけて実施した。

今回、大黒湯に続き、首都東京の経済・社会を支える東京港から内航船の魅力を発信することとなった。有明客船ターミナルにとっても、写真展の開催は初の試み。同ターミナルの指定管理者である東京港埠頭の卯月かほる客船ターミナル担当係長は、「実際に大黒湯まで写真展を見に行き、日本の海には内航船員だから見ることでできる様々な海の風景があり、その中で内航船によってたくさんの物資が東京に入ってきて、私たちの生活が保たれていることを改めて感じた。東京がこうした航路でいろいろな人や地域とつながっていて、今の暮らしがあるということを、東京の方々のみならず、首都圏



の方々にも知ってもらい、何かを感じてもらえる機会になれば」と語る。

開催期間中の9～10月は、社会科見学として、東京都内の小学校35校の児童約2200名が同ターミナルから海上バスに乗船して東京港を見学するほか、近隣の東京ビッグサイトで多数のイベントが開催される予定であることから、「海から届ける写真展」はより多くの人の目に留まることになる。

全日本内航船員の会の松見準事務局長は、「航路の魅力とは、地域と地域の結びつきから、人との交流や歴史、文化が生まれてくること。例え東京港と直接結ばれていない地域であっても、内航船の航路網により“どこかの誰か”とつながっていることをイメージすると、きっと心が豊かになってくると思う。今回、社会科見学の子供たちにも、内航船が日本中を結んでいることを感じて、親近感を持ってもらえるよう願っている」と期待を寄せている。

有明客船ターミナルの開館時間は9～18時（年中無休）。写真展の鑑賞は無料。アクセスは、ゆりかもめ「国際展示場正門」から徒歩約3分、海上バス「東京ビッグサイト発着所」隣接。（了）